

# 平成28年いちごのナミハダニ薬剤感受性検定結果

平成28年9月14日  
長崎県病害虫防除所

## 1. 試験方法

### 1) 供試虫

平成28年4月下旬～8月上旬に県内本土地域のいちご産地4地点(雲仙市国見町、大村市、佐々町、南島原市西有家町)のそれぞれ1圃場(雲仙市国見町・大村市は本圃、佐々町・南島原市西有家町は育苗床)から、1個体群ずつを採集した。

### 2) 検定方法

#### (1) 供試薬剤および希釈倍数

薬 剤 名	希 釈 倍 数
コロマイト水和剤	2,000倍(常用)、6,000倍(3倍希釈)
マイトコーネフロアブル	1,000倍(常用)、3,000倍(3倍希釈)
ダニサラバフロアブル	1,000倍(常用)、3,000倍(3倍希釈)
スターマイトフロアブル	2,000倍(常用)、6,000倍(3倍希釈)
アフーム乳剤	2,000倍(常用)、6,000倍(3倍希釈)
ダブルフェースフロアブル 注1)	2,000倍(常用)、6,000倍(3倍希釈)
無処理	—

注1) 検定においてはダブルフェースフロアブルの1成分であるピフルブミド水和剤を用いた。

※各区3反復で検定。

#### (2) 処理方法

##### ①ハダニの接種

インゲン苗の初生葉から2cm×4cmの葉片を切り出し。ナミハダニ雌成虫を8～10頭(1葉片当たり)接種し2日間産卵させた後、雌成虫を取り除いた。

##### ②薬剤処理：葉片浸漬法

雌成虫を取り除いた後、卵を葉片ごと所定濃度の薬液に約10秒間浸漬した。薬液には展着剤ネオエステリンを10,000倍になるよう添加し、無処理区には展着剤10,000倍のみを添加した。なお、処理期間中の室温は25℃に設定した。

#### (3) 効果の判定

処理7日後に未ふ化卵数、死亡虫数及び生存虫数を調査し、下記の式により補正死亡率を算出した。

$$\text{補正死亡率} = \{ (\text{無処理区生存率} - \text{処理区生存率}) / 100 - \text{無処理区生存率} \} \times 100$$

## 2. 結果

### (1) コロマイト水和剤

常用濃度の補正死亡率は大村市で87.4%、佐々町で98.2%と高かったが、国見町・西有家町ではそれぞれ79.8%、72.3%とやや低かった。3倍希釈濃度では、佐々町では92.8%と高かったものの、他の3地点では40%以下と低かった。

### (2) マイトコーネフロアブル

常用濃度の補正死亡率は、佐々町で96.5%以上と高かったが、国見町では70.5%とやや低く、他の2地点では50%程度と低かった。

### (3) ダニサラバフロアブル

常用濃度の補正死亡率は、全ての地点で60%以下と低く、西有家町では7.9%と特に低かった。3倍希釈濃度でも全ての地点で低かった。

### (4) スターマイトフロアブル

常用濃度の補正死亡率は国見町・大村市・佐々町では85%以上と高かったが、西有家町では40.5%と低かった。3倍希釈濃度では国見町・佐々町で87.1%、98.1%と高かったが、大村市では73.9%とやや低く、西有家町では42.9%と低かった。

### (5) アファーム乳剤

常用濃度の補正死亡率は全ての地点で90%以上と高かった。3倍希釈濃度では国見町で76.2%とやや低かったものの、他の3地点では90%以上と高かった。

### (6) ダブルフェースフロアブル

常用濃度の補正死亡率は国見町・佐々町で100%と高かったが、西有家町では64.3%とやや低く、大村市では7.9%と低かった。3倍希釈濃度では国見町・佐々町で90%以上と高かったが、西有家町では64.2%とやや低く、大村市では0%であった。

表 いちごのナミハダニに対する各薬剤の殺卵効果

薬剤名	希釈倍率		雲仙市 国見町	大村市	佐々町	南島原市 西有家町
コロマイト水和剤	2000倍	供試卵数(個)	354	373	201	322
	(常用濃度)	補正死亡率(%)	<b>79.8</b>	<b>87.4</b>	<b>98.2</b>	<b>72.3</b>
	6000倍	供試卵数(個)	284	315	223	356
		補正死亡率(%)	<b>33.1</b>	<b>36.8</b>	<b>92.8</b>	<b>31.3</b>
マイトコーネフロアブル	1000倍	供試卵数(個)	247	390	209	447
	(常用濃度)	補正死亡率(%)	<b>70.5</b>	<b>50.3</b>	<b>96.5</b>	<b>50.2</b>
	3000倍	供試卵数(個)	302	363	241	376
		補正死亡率(%)	<b>57.0</b>	<b>77.6</b>	<b>65.1</b>	<b>47.4</b>
ダニサラバフロアブル	1000倍	供試卵数(個)	372	459	157	402
	(常用濃度)	補正死亡率(%)	<b>41.6</b>	<b>28.6</b>	<b>55.2</b>	<b>7.9</b>
	3000倍	供試卵数(個)	284	398	138	451
		補正死亡率(%)	<b>41.0</b>	<b>6.3</b>	<b>53.7</b>	<b>2.3</b>
スターマイトフロアブル	2000倍	供試卵数(個)	243	379	181	465
	(常用濃度)	補正死亡率(%)	<b>98.1</b>	<b>87.7</b>	<b>100</b>	<b>40.5</b>
	6000倍	供試卵数(個)	387	264	170	401
		補正死亡率(%)	<b>87.1</b>	<b>73.9</b>	<b>98.1</b>	<b>42.9</b>
アファーム乳剤	2000倍	供試卵数(個)	289	371	227	413
	(常用濃度)	補正死亡率(%)	<b>96.7</b>	<b>100</b>	<b>100</b>	<b>94.6</b>
	6000倍	供試卵数(個)	322	203	155	415
		補正死亡率(%)	<b>76.2</b>	<b>100</b>	<b>100</b>	<b>98.0</b>
ダブルフェースフロアブル	2000倍	供試卵数(個)	262	287	176	439
	(常用濃度)	補正死亡率(%)	<b>100</b>	<b>7.9</b>	<b>100</b>	<b>64.3</b>
	注1) 6000倍	供試卵数(個)	546	290	173	359
		補正死亡率(%)	<b>99.0</b>	<b>0</b>	<b>100</b>	<b>64.2</b>
無処理		供試卵数(個)	359	490	189	435
		死亡率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0

注1) 検定においてはダブルフェースフロアブルの1成分であるピフルブミド水和剤を用いた。